2023年10月11日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第4期 第15回（通算59回）

教育DXと教育データ利活用の現状と今後
（資料タイトル　教育データ利活用最新動向・実践事例）

１．内容

１．教育DXで目指す姿

２．共通ルールの整備

３．基盤的ツールの開発・運用

４．教育データの分析・利活用の推進

２．所感

本日は文科省の教育DXの目指す姿を改めて確認させていただきました。全くブレはなく、改めて確認できることはいい機会だと思います。一つ目は、質問にも出ましたが、デジタルか紙かの二項対立ではないことを改めて確認できました。DXが全てではない、デジタルがすべてではない、それぞれの良さを生かして、フレキシブルに選んで実行していく、あくまで手段であって、ゴールは子どもの学びをより良いものにしていくということ。もう一つは、新たな学び、学びの価値が出てくるだろう教育DXの第三段階のデジタルトランスフォーメーションについて、第二段階までを体験してみて、もっとこうしたらいいよね、もっと良い学びを提供できるよね、となって生まれてくる世界なので、現段階でこういうものだと決まっているものではなく、皆さんと一緒に創っていく、見つけていくモノだと考えているとのお言葉をいただいています。

また、教育ＤＸにおける文科省の役割についても改めて確認させていただきました。「ルール（各種標準化）」、「ツール（MEXCBT、EduSurbey）」、「分析・活用（エビデンスベースドポリシーメイキング）」の３つについて、ご紹介いただきました。これにより子どもたちの学びをより良くしていく、先生の働き方を変えていく事につなげること。

さて、質疑・議論について紹介させていただきます。データ利活用について、お金・要員補充をどう考えるかという問いに対して、本当は各学校にデータサイエンティストのような方が配置できたらいいのですがと前置きされた上で、ＩＣＴ支援がその役割をになっている地域が出てきている事例をご紹介いただきました。また、自治体と協力して、データ利活用の研究をしていることもご紹介いただきました。データ利活用の基礎が出来て進んでいくことを実感しました。

校務支援システムやセキュリティポリシー、ダッシュボードなど、国が強く決める、方針を出すかという問いに対して、各地域の課題に合わせて調達する事になるので、ガイドラインのようなものをアップデートして示して、働きかけしていくとのことでした。

藤原さん、本日は、ブレない方針、事例の共有、誠にありがとうございました。是非、第三段階のデジタルトランスフォーメーションに向けて進んでいきましょう。

以上